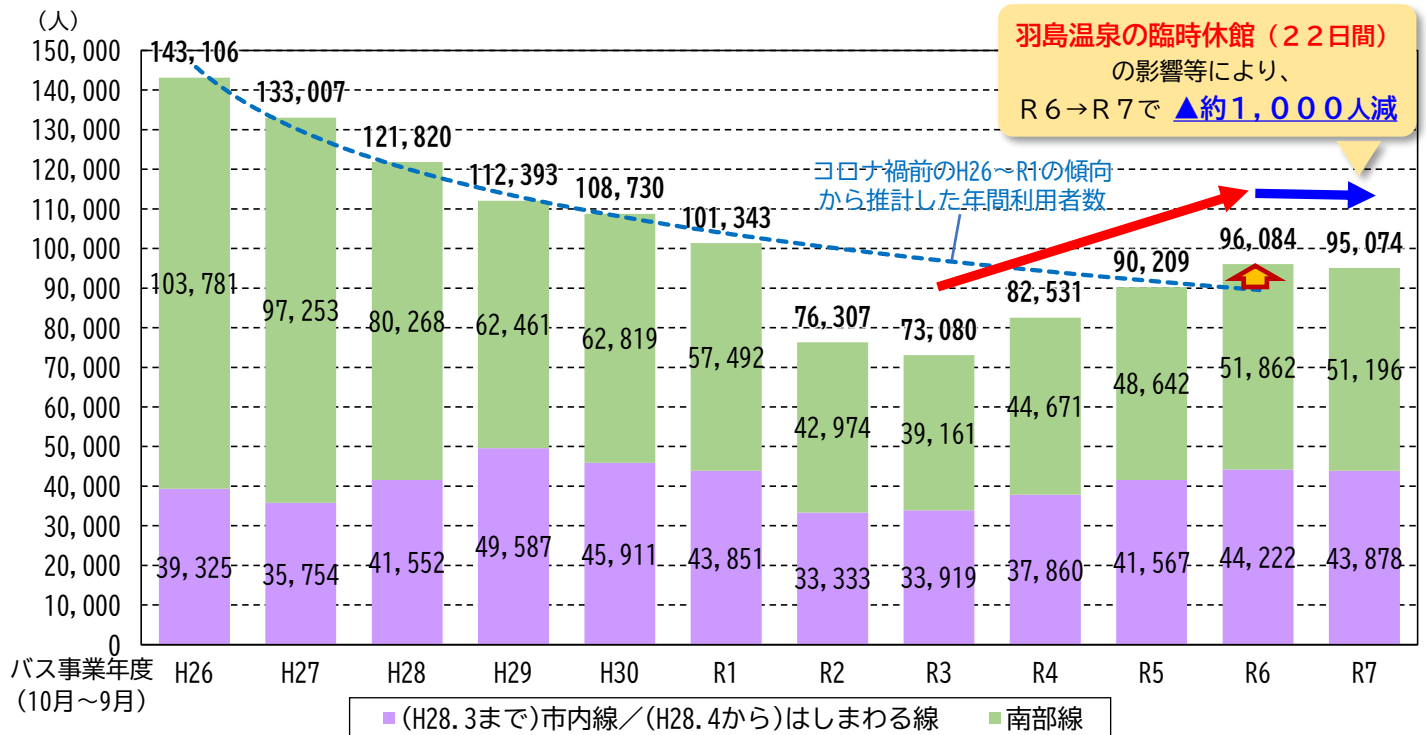


年間利用者数の推移

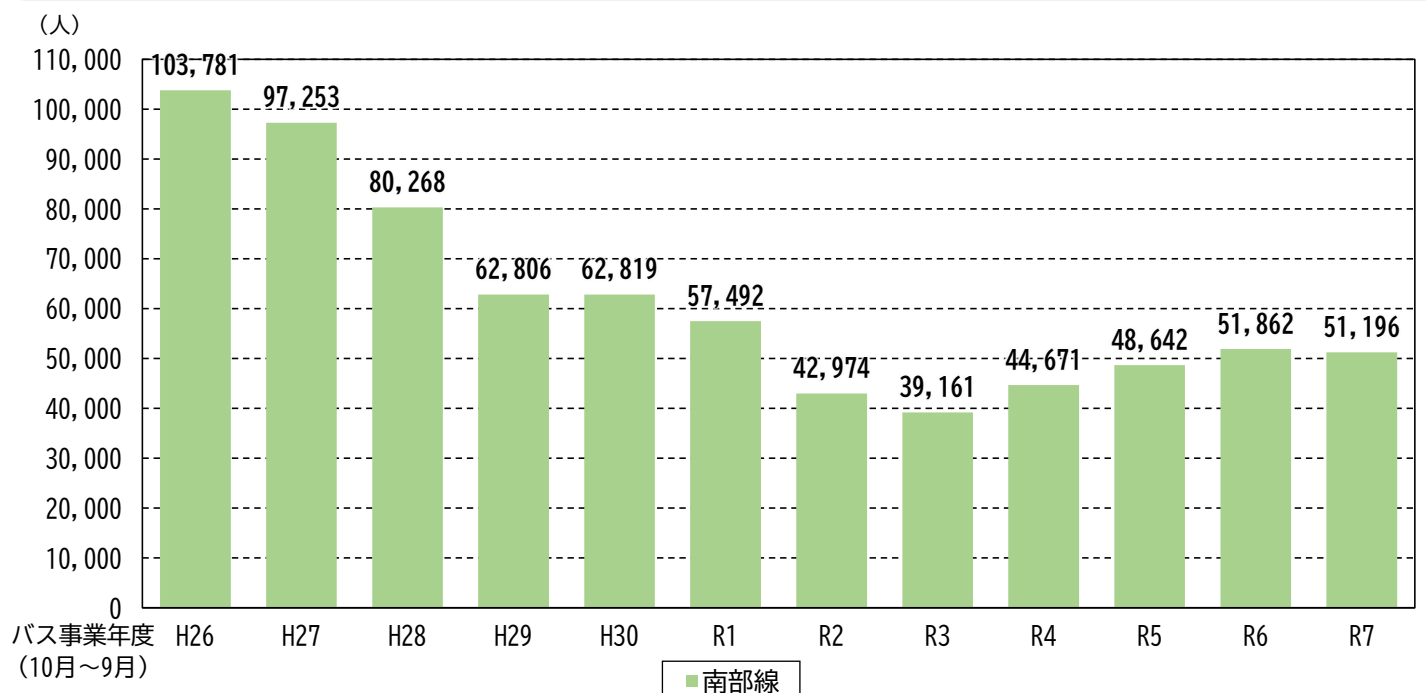
コミュニティバス全体

- 令和7年度の利用者数は若干減少しているが、これは羽島温泉の6月と8月の臨時休館（22日間）が少なからず影響しているものとする。その要因を考慮すると、ほぼ前年度と同程度であると推察する。



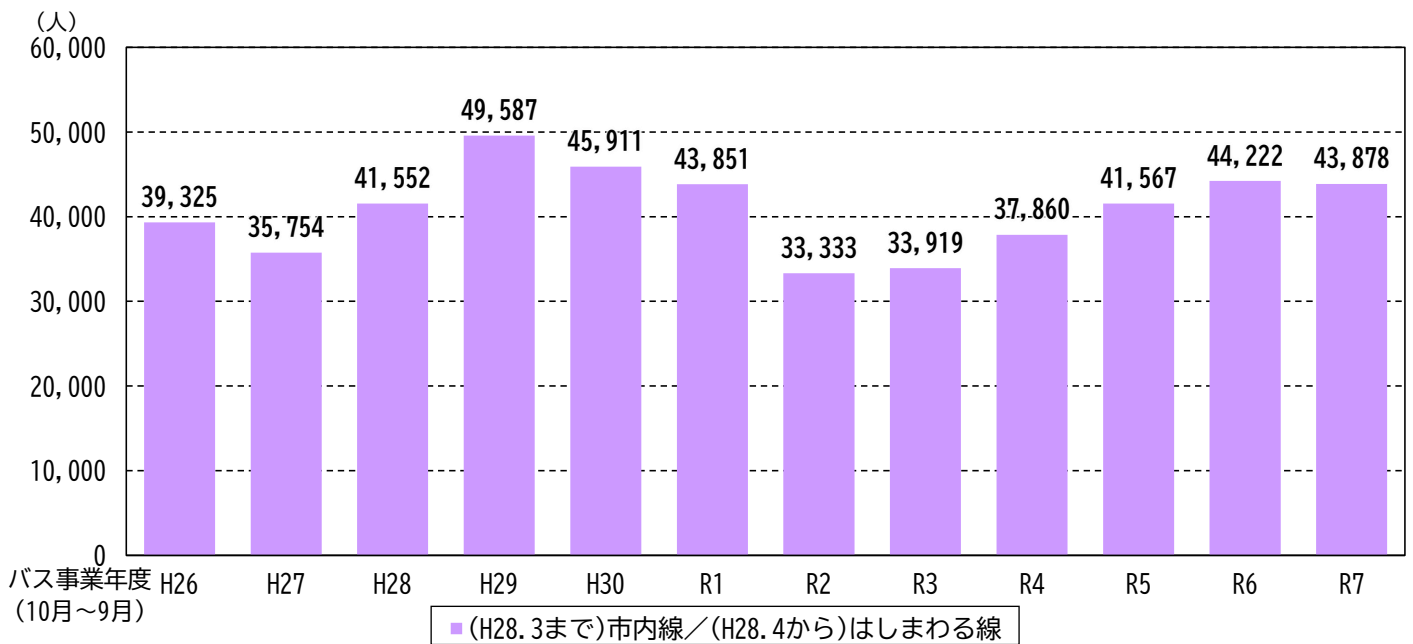
南部線

- コロナ禍以前は、高校生の減少に伴い利用者数の減少が続いていた。
- 令和7年度は利用者数は若干減少しており、羽島温泉の臨時休館(22日間)が少なからず影響しているものとするが、継続して動向を注視する。



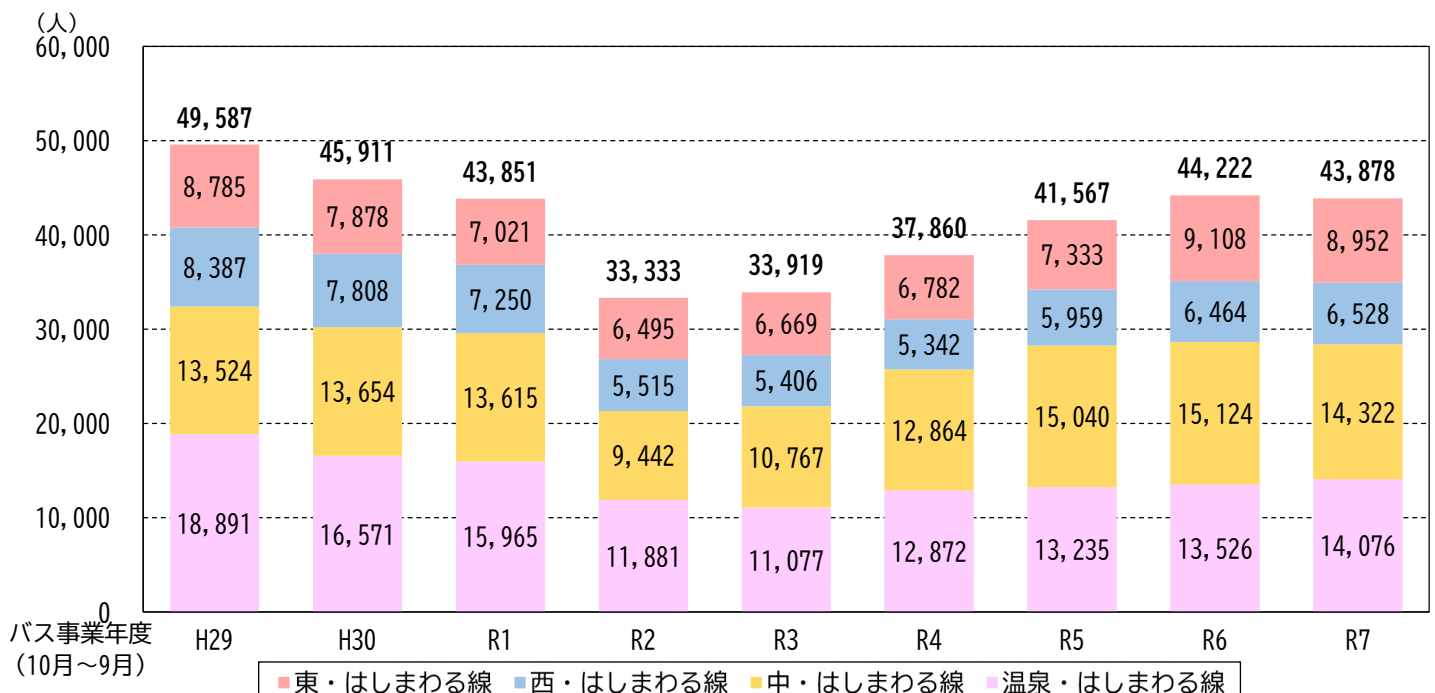
はしまわる線

- 令和7年度は利用者がわずかに減少しているが、羽島温泉の臨時休館（22日間）が少なからず影響しているものとする。その要因を考慮すると、ほぼ前年度と同程度と推察する。



路線別の分析

- 東・はしまわる線**：羽島温泉の臨時休館の影響もあり、前年度からは微減となっている。一方、令和4年度以降高校生（特別支援学校）の通学利用者数が増加している。
- 西・はしまわる線**：前年度と比べて概ね同程度の水準で推移しているが、利用者数の水準は他路線と比べて低い。
- 中・はしまわる線**：前年度からは減少している。商業施設の利用者は一定数みられるものの、令和7年度における羽島温泉の臨時休館の影響を相対的に大きく受けた路線と考えられる。
- 温泉・はしまわる線**：平日の羽島温泉での乗降者数が前年比で大幅に増加している。そのため、臨時休館での利用者減以上に、年間利用者数が増加したと推測される。



便別利用者数の比較

平日

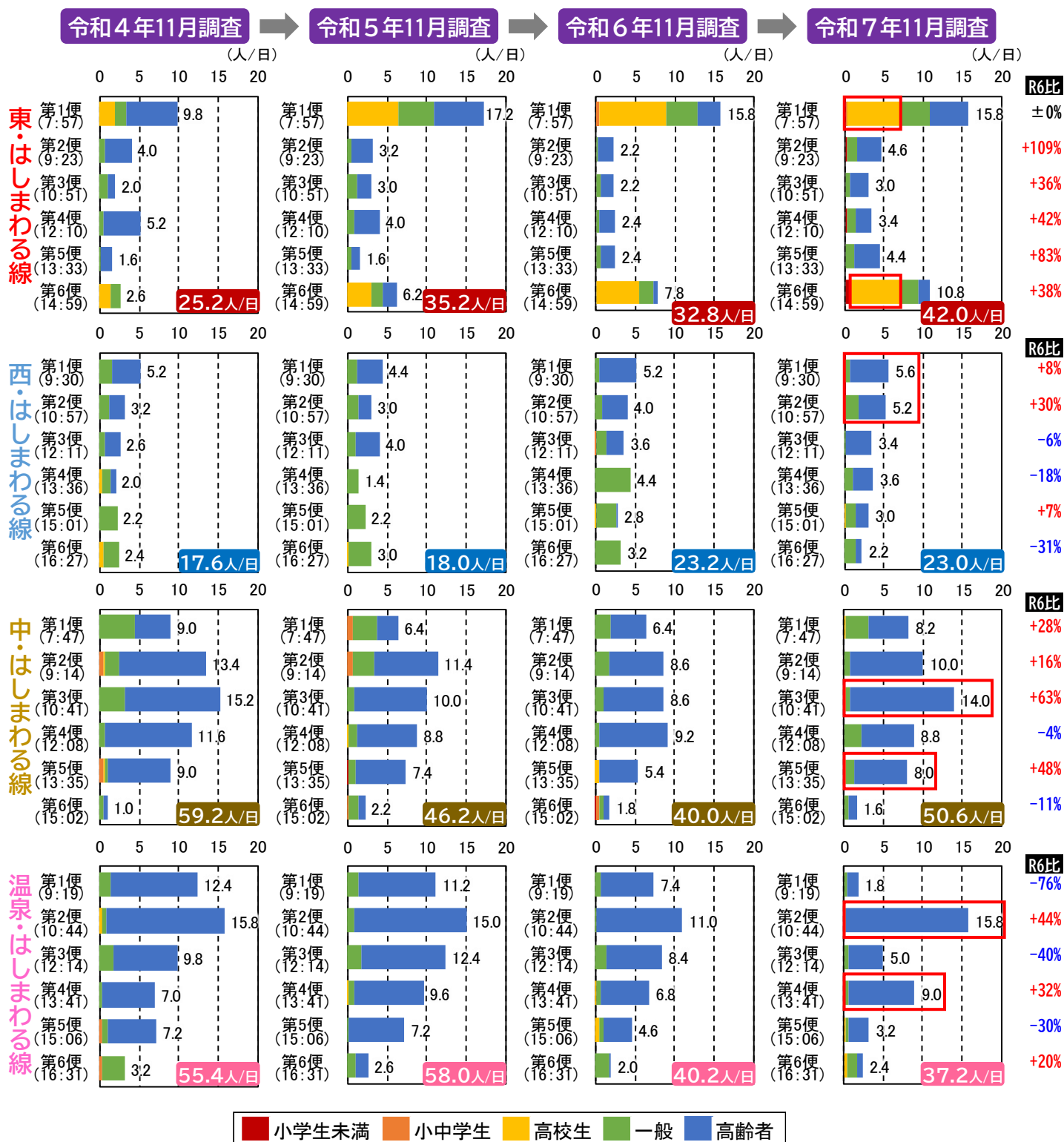
- 令和7年度は、通学利用が関係する朝・夕の便、羽島温泉利用が中心となる日中便で、それぞれ増減の傾向が分かれています。

東・はしまわる線：第2～6便で増加。高校生（特別支援学校）の通学利用は第1便が前年度並み、第6便は増加しており、夕方の利用増が目立つ。

西・はしまわる線：第1便及び第2便は増加した一方、第4便及び第6便は減少しており、朝便と夕方便で傾向が分かれるが、全体的に利用者数が少ない。

中・はしまわる線：羽島温泉利用が多いが、特に第3便及び第5便で増加が目立つ。市民病院の利用者数が増加している。

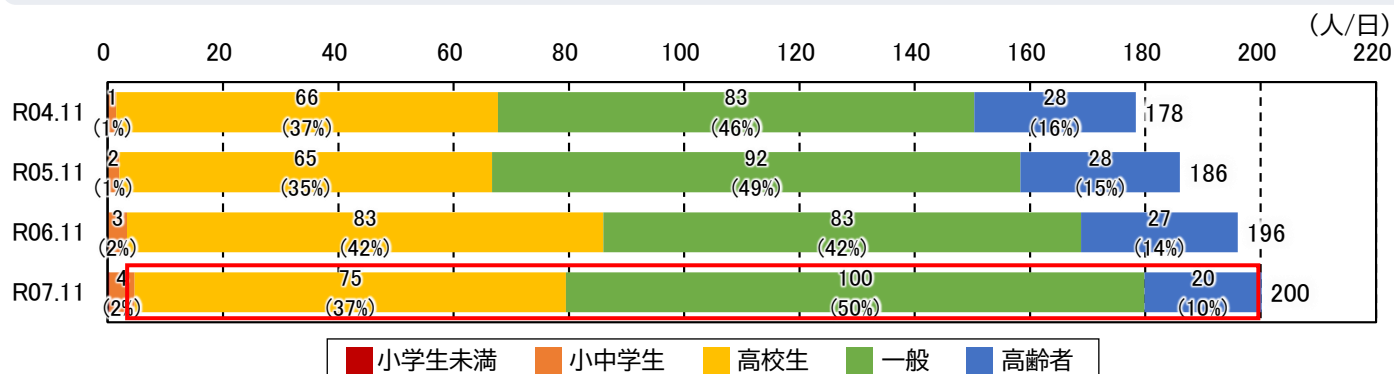
温泉・はしまわる線：羽島温泉利用が多い第2便及び第4便は増加した一方、第1便及び第3便の減少が大きい。



南部線

属性別利用者数の比較

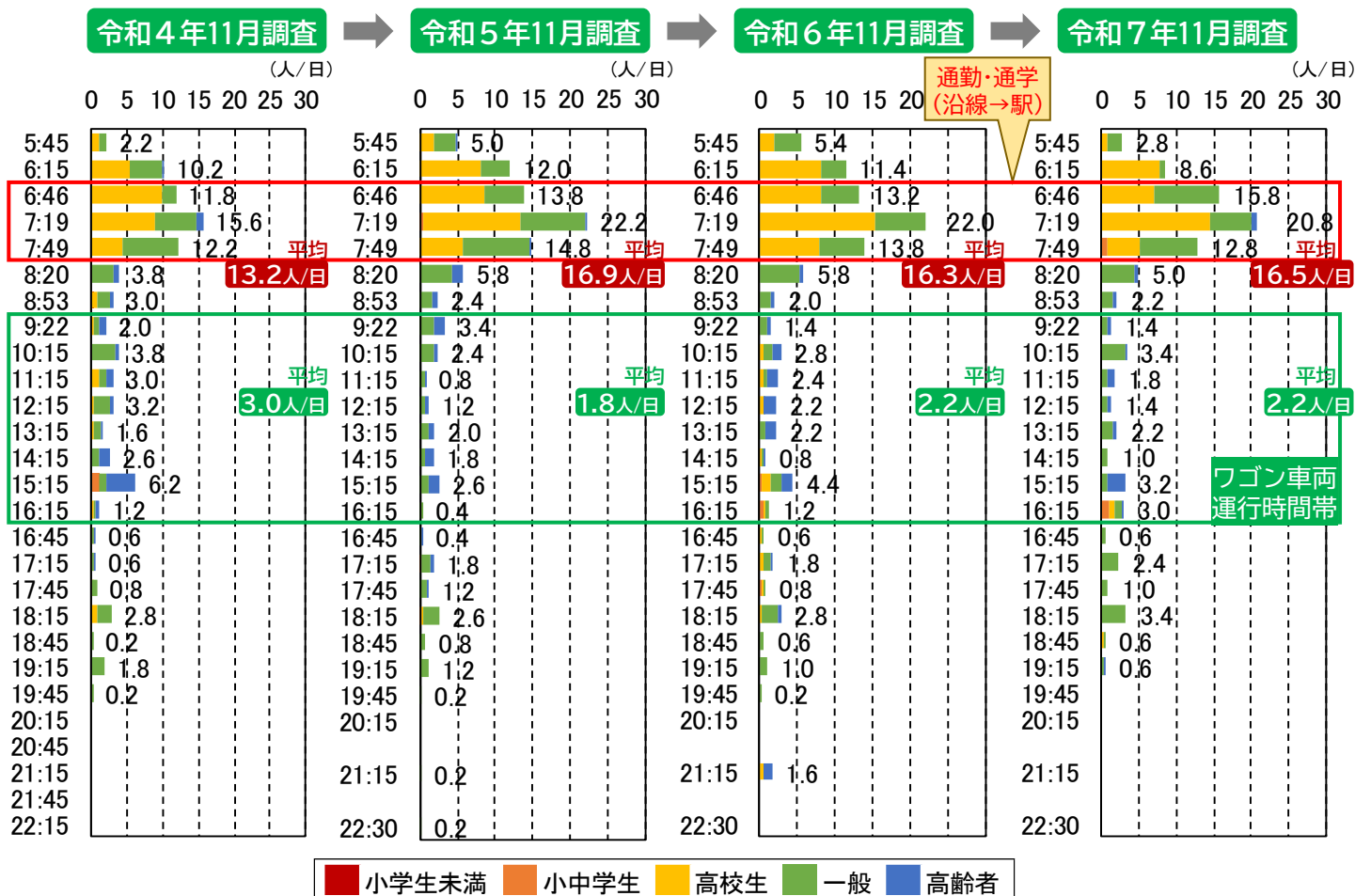
- 令和7年11月は200人で、令和6年11月の196人から微増し、**近年では最も多い水準**となっている。
- 属性別では、**一般が100人(50%)**まで増加した一方、**高校生は75人(37%)**に減少している。高齢者は20人(10%)となり、構成比は低下している。



便別利用者数の比較

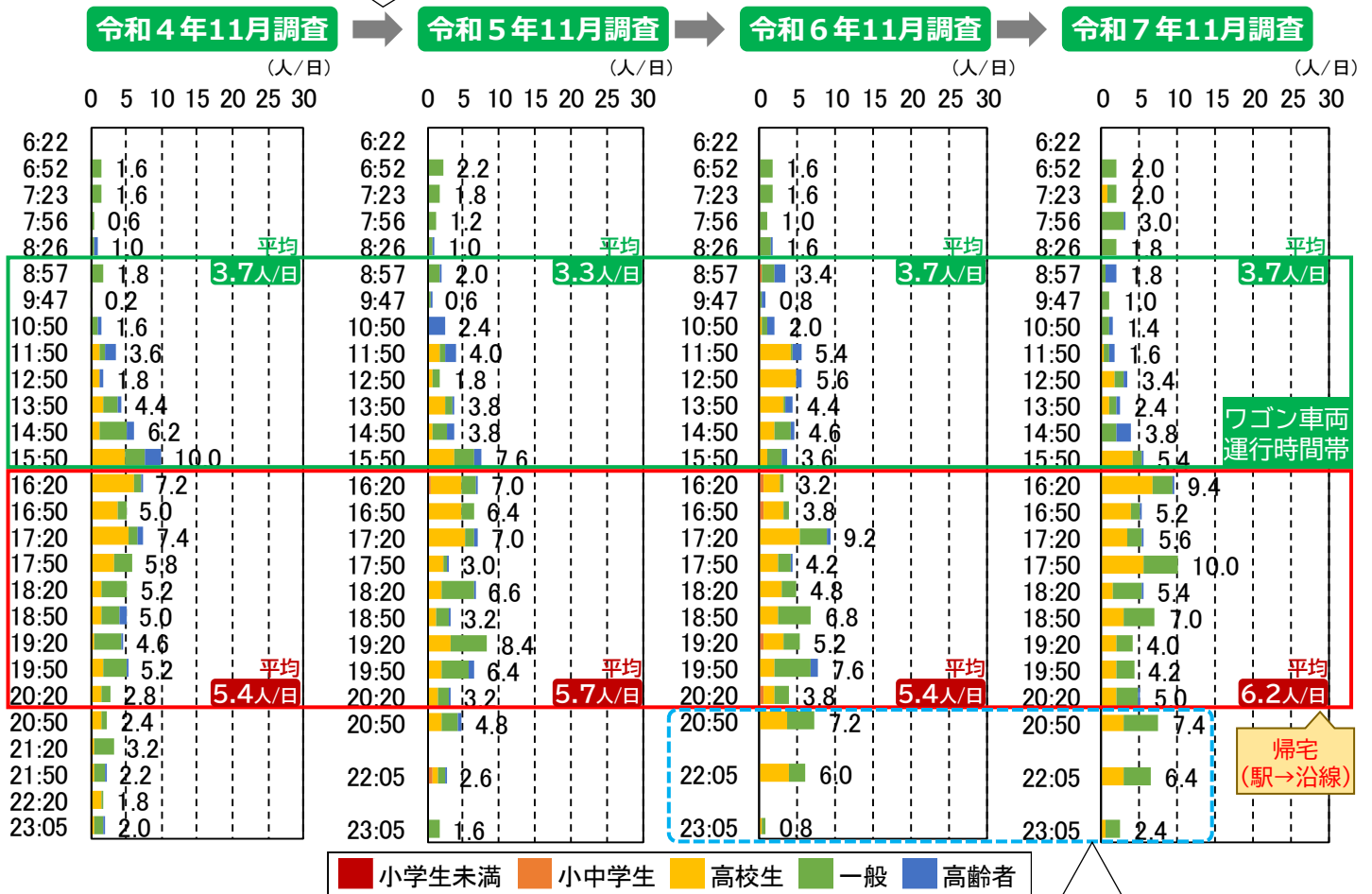
- 平日は通勤・通学利用が中心であり、朝は羽島市役所前駅行き、夕方から夜間は大須行きに利用が集中している。
- 令和7年度は、朝の羽島市役所前駅行きが16.5人/日、夕方から夜間の大須行きが6.2人/日となっており、朝は令和5年度以降おおむね横ばい、**夕方から夜間の大須行きは令和6年度から増加**している。
- 昼の便(ワゴン車両運行時間帯)は、羽島市役所前駅行き2.2人/日、大須行き3.7人/日であり、利用は限定的である。

平日 羽島市役所前駅行き



平日 大須行き

令和5年3月名鉄のダイヤ改正
に伴い夜間のダイヤを改正



夜間(羽島市役所前駅20:50発以降)の各便において、一定の高校生の利用がみられる